

令和2年度 卒業式 式辞

中庭の桜も芽を出し、いよいよ秋竹小学校にも希望いっぱいの春がやってきました。本日、卒業されます二十三名の皆さんに心よりお祝いの言葉を申し上げます。

ご卒業、おめでとうございます。

この素晴らしい日に、あま市教育委員会学校教育課長 内山伸也（うちやま しんや）様始め、ご来賓の皆様にご臨席を賜りましたことを 高い席からではございますが 謹んでお礼申し上げます。ありがとうございました。

今年度は四月当初より新型コロナウイルスの感染拡大により、学校も臨時休業となり、ようやく六月に学校を再開することができました。しかし、感染予防の目的で、皆さんの小学校生活最後の大切な行事も中止、もしくは縮小しての開催とせざるを得なかったことは、本当に残念なことでした。秋竹小学校の伝統である「なかま活動」も、人と人との接触が制限される中、実施すら危ぶまれていましたが、入学以来「なかま活動」をずっと経験してきた皆さんが、制限された中でできることはないかを一

生懸命模索し、できる限りの努力をして下級生に接する姿をみて、皆さんがこの活動を通して培ってきた力の大きさを実感すると同時に、頼もしさを感じました。また、運動会も、例年よりも種目と時間を減らしての実施となりましたが、下級生を気遣いながらリーダーシップを発揮し、充実した行事にできたことは、本当にすばらしかったと思います。

また、私が特に皆さんに感心したことは、登下校で、下級生の安全に配慮して歩いていた姿です。時には、学校へ行く足取りが重い下級生に、やさしく付き添う人がいました。道路を横断する際に、待っていてくれた車の運転手の方に、毎回丁寧に礼をする子がいました。地域の方に会うと、必ず丁寧に挨拶をする人がいました。当たり前のことと言われるかもしれませんが、こうした一つ一つの行動を大切にする皆さんの姿を、下級生の皆さんはしっかりと見ていたはずです。そして、これからの新しい秋竹小学校の伝統をつくり上げていくはずです。下級生によきお手本を示していただいた皆さんには、心よりお礼を申し上げます。

皆さんの門出にあたり、二つのことをお伝えしたいと思います。

一つ目は、困難なことがあっても努力を惜しまな

い人になってください。皆さんには、輝かしい未来があると思いますが、そこに至る前に、予想することが不可能な、さまざまな困難なことがあるかもしれません。でも、人間は、昔から多くの困難を乗り越えて、今日の世界を築き上げてきました。人間は、困難にすぐ負けてしまうほど弱くはないのです。先ほどからお話ししている通り、今は新型コロナウイルスの影響で世界中が大変な状況ですが、病気を防ぐためのワクチンを作ろうと、日夜研究に励んでいる人がいます。人と人が集まらなくても、遠くにいる人と、インターネットを使って、お互いが顔を見て会話ができるようにする技術も発達しました。皆さんには、困難なことがあってもすぐにあきらめずに、努力をし続ける強い意志をもってほしいと思います。

二つ目は、相手のことを考え、責任をもって努力できる人になってください。今年、医療従事者の方に、児童会の皆さんが中心となって、メッセージを届ける活動をしていただきました。本当に素晴らしい活動だったと思います。今日も全国で、多くの医療従事者の方が、患者の方に寄り添っていただいていると思いますが、ある医療従事者の方が、こんな質問を受けられたそうです。「感染するのが怖くないですか。もうやめたい

と思わないのですか」するとその方は「私たちよりも、感染した方の方が苦しい思いをしています。もちろん、私たちも感染は怖いですが、でも、私たちがいなければ、感染した方を治療する人がいなくなり、患者の方は今より苦しい思いをします。だから今、やめるわけにはいきません」

私たちは、一人だけでは決して生きていくことはできません。お互いが助け合う場面が必ず出てきます。そんな時、自分の役割は何かを考え、責任をもって努力することが必要だと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。お子様がここまで立派に成長されたのも、ご家族の支えがあったからこそと思います。どうぞこれからも子どもたちの一番の応援団でいてください。

私たち秋竹小学校の教職員一同も、皆さんの今後の活躍と幸せを心より願っています。どうか、本校の卒業生であることに誇りをもって、未来に向かって力強い一歩を踏み出してください。

令和三年三月十九日

あま市立秋竹小学校長 山田 洋暢